

ホテル事業者から白保の住民に対し、計画変更の説明や質問の機会は設けられていませんが、11月、概要が明らかになりましたのでお伝えします。

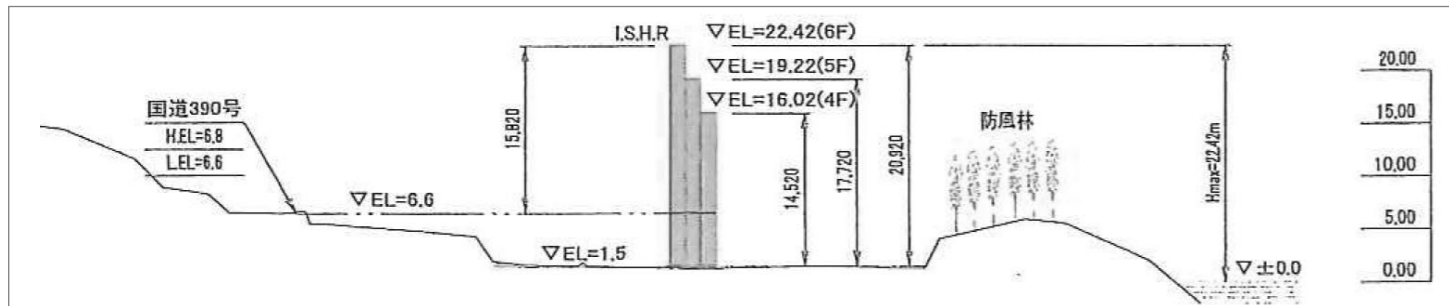
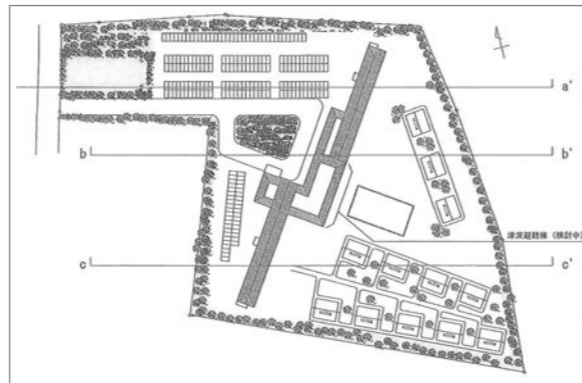
## 4Fから6F建てに計画変更 高さ最大22m

### 地元資本のはずが…

このリゾート開発は、株式会社日建ハウジング（那覇市/代表取締役 眞保榮薫）が、地元資本でリゾート開発を行うとして、石垣市に子会社を設立して進めてきました。しかし、その子会社は、今年10月に日建ハウジングが合併吸収し、なくなりました。

### 市の風景計画 高さ制限9m越え

石垣市風景計画の高さ制限は13mであるにもかかわらず、高さ最大22m以上となっています。



資料 計画変更概要図より抜粋 (2018.11.7)

## どうなってるの？ 年間予定利用 約10万人の排水

- ホテルへの給水は1日最大300トン
- ホテル建設予定地に公共下水道はなく、当初、排水は処理後に地下に浸透させる計画
- 雑排水は、農業用再生水としてリサイクルする計画に変更 大量の再生水の放流先は不明
- 農業用再生水は、サンゴと魚が豊かな白保の海には悪影響
- トイレは循環式に計画を変更 ←これは☺
- 市も県も専門家も「ホテルの排水は白保の海やサンゴに悪影響を与えません」と保証はしていない

新しい負荷



ホテル利用者 繁忙期には

## 1日500台近い車の増加

年間予定利用者は約10万人。繁忙期には、1日500台近い車の通行量の増加が予想されています。  
八重山警察署によると署管内のレンタカー物件事故は年々増加傾向にあり、4割りを占めているそうです。

## なぜ問題なのか？

白保公民館では臨時総会を開催し、このホテル計画に対して「不同意」の決議が出されました。当会では、沖縄県に対して計画の問題点を指摘しましたが、3月、開発許可が出されてしまいました。県が行う開発許可の基準は、住民の意向、地域の文化や周辺環境の

生態系への影響などは考慮されないため、法に基づき許可されたからといって、暮らしや自然環境に悪影響がない、という話ではありません。国の法整備、実効性のある施策が追いついていないことから、開発による問題が日本各地で起きています。

これまでの経緯

- 平成28年 2月 (株)日建ハウジングがUDS(株)と白保でホテル事業を計画
- 3月 (株)日建ハウジングが、(株)石垣島白保ホテル&リゾートを設立
- 8月 白保公民館にホテル建設計画の説明→白保公民館が傘下団体等に検討依頼 事業者が白保公民館傘下団体等に説明
- 平成29年 1月 地元紙で開発計画が公表され、地元資本で環境や景観に配慮とアピール
- 4月 白保公民館傘下団体等に説明。同日、住民の不安を勘案しUDS(株)が撤退。
- 7月 白保公民館で、住民説明会開催
- 10月 開発許可申請書類および石垣市条例に基づく届出を提出
- 11月 **石垣市は、事業者の開発行為の届出に対して、条例に基づき不同意の通知** 開発許可申請が、石垣市から沖縄県に進達
- 白保公民館が、臨時総会でホテルの開発計画に不同意の決議** 県に開発許可をださないよう署名活動開始 約2週間で1万筆を越える
- 平成30年 3月 **沖縄県が開発許可を出す**
- 4月 住民からの質問および要望を送付 → 根拠のない理由で回答拒否
- 9月 白保地区の漁業者およびエコツアー事業者がホテル建築工事差止を求め提訴 訴訟を支援する会が発足 賛同者を募り支援を呼びかけ開始
- (株)日建ハウジングが(株)石垣島白保ホテル&リゾートを合併吸収する公告
- 11月 (株)日建ハウジングが白保公民館長宅を訪ね、大幅な計画変更を説明

これから

日建ハウジングに対して、白保住民にホテル計画の変更について説明会を行うように要望書を提出しました。沖縄県や石垣市にも計画変更に関する問題点の指摘などを行っていきます。

### 白保リゾートホテル問題連絡協議会について

白保公民館の傘下・関連の4団体(白保魚湧く海保全協議会、白保ハーリー組合、白保日曜日運営組合、NPO夏花)からなります。私たちは、日頃から環境保全活動に携わる知識や経験を生かして、事業者から

説明を聞き、問題点の整理・検討を行うように白保公民館から要請されたことを受けて活動しています。これからも住民の意思に基づいた地域づくりに役立てるよう取り組んでまいります。

